

# 琉球大学学術リポジトリ

## 玩具（おもちゃ）

メタデータ	言語: 出版者: 琉球大学農家政学部 公開日: 2011-07-05 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 宜保, 美恵子, Gibo, Mieko メールアドレス: 所属:
URL	<a href="http://hdl.handle.net/20.500.12000/21045">http://hdl.handle.net/20.500.12000/21045</a>

# 玩具(おもちゃ)

子どもの生活は遊びそのものであるといわれます。子どもは、その遊びの中で、いろいろなことを覚え、いろいろな能力をのばしていきます。そして遊びを発展させるものとして大切なものが玩具です。たとえば代表的な玩具である積木についてみますと、いろいろなかたちの積木をならべ、積み重ねて列車をつくったり、家をつくったりします。そこには子どもの構成する能力が育てられてまいります。もっとくわしくいえば、観察するはたらきも、工夫する態度も、想像する力も育てられ、ものをつくりあげる努力も完成できた喜びも見いだされます。子どもは自分の身のまわりにおかれている積木という玩具によって、これだけの活動をし、発達の一步を進めるです。

## A) 年齢に適した玩具

子どもの心身の発達を助長するのに重要な役割をもつ玩具も、それを与えられる幼児の発達の状

況によって優良なものとも不良なものともなることを銘記しなければなりません。例えば、性能がすぐれ、堅牢にできている三輪車でも3才児にはよい玩具でも、2才の子どもには興味を起さない無価値なものとなってしまう場合が多いのです。それでは子どもの発育に適した玩具とはどんなものか表をごらん下さい。

## B) 玩具の選び方

### 子どもの発育状態に応じて選びましょう

「這えば立て、立てば歩めの親心」といわれますようにわが子を、少しでも早く成長させたい気持ちで、ともすれば子供の年齢より高い年齢の玩具を与えがちなものですがこれにはいろいろの弊害が起る恐れがあります。

- 1) 子供が興味を示さない。
- 2) 子どもが危険である。

運動機能がよく発達しない子どもに、早くか

乳幼児の発達に適した玩具

	年 令	発 達 の 段 階	玩 具 の 機 能	玩 具 の 種 類
乳 児 期	1～3ヶ月	ねている頃 視覚、聴覚などの 感覚が発達する。	眺める玩具 音を聞かせる玩具 眺め、音をきく玩具	風車、風船、くす玉、 笛、太鼓、ガラガラ オルゴール
	4～8ヶ月	ねがえり、はいはい をする頃 物が握れる、物をなめ てみる。	運動を誘う玩具 手で握り、振つて音を出 す玩具 しゃぶるもの	ゴムマリ、ガラガラ  おしやぶり
	9～12ヶ月	はったり、つかまり立ち をする頃 物を投げたり、破ったり する、運動がはげしくな る。	口で吹いて音を出す玩具 握って音を出す玩具 組立てる玩具 全身の運動を促す 玩具	ラッパ、笛 ゴム人形、太鼓 簡単な積木 車のついた乗物、動く 玩具
幼 児 期	1～2年	一人歩きのできる頃	手足の運動を整える 玩具 組立てる玩具	押し車、のりもの 砂遊び 簡単な積木、簡単な楽器
	3～4年	全身のかまえと手足 の運動が活発になる	手足の運動を整える玩具 模倣遊びの道具 組立て玩具	輪投げ、お手玉、ボール ままごと、砂遊び、水遊 び、電車ごっこ、人形遊び 積木、絵本、組合せ
	5～6年	手足の細かな運動が巧 みになり、知的な遊び ができる	手足の細かな運動を整 える玩具 創作を促す玩具	切り紙、折り紙、鉄、おす べり、フランク、三輪車 文字数字遊び、かるた、 簡単な木工、とびなわ、 粘土、きびがら、おはじ き、貝細工、楽器

らその子どもの能力以上の動きを必要とする玩具を与えることは危険です。

### 3) 子どもに依頼心をいだかせる。

子どもの発育状態より程度の高い玩具を与えると自分で簡単にあつかえないため、だれか大人の手をかりなければ遊べないので人に頼る傾向をいだかせます。

○子どもの各種能力を伸ばすようなものを選びましょう。

子どもは遊びを通じて握る、這う、立つ、歩く、とぶ、などの運動機能をのばし、視覚、聴覚、社会性、創造力、構成力を育てます。

○子どもの気持になって選びましょう。

子どもの好みをいれて選ぶとともに、その感覚、思考の発達のことを考えて選ぶことが大切です。

○玩具は丈夫なものを選びましょう。

すぐこわれるのは単に不経済なばかりでなく物を大切にできる気持が養われないものです。

○危険のないのを選びましょう。

幼い子どもは自分で危いということを判断することがまだよくできません。

赤ちゃんなどは手にもったものはなんでもすぐ口にいられますので特に注意しなくてはなりません。

○清潔にできるものを選びましょう。

## C) 玩具の与え方

1) 適当な数の玩具を与えること、数が多すぎると一つのことに集中しないで注意散漫になる傾向があり、少ないと発達の面が遅れるといわれます。

2) 玩具のあつかい方について大人が干渉しないで自由に遊ばせることが大切です。

3) 遊んだ後は後始末をさせるようにします。

(宜保美恵子)